



FLAT -ふらっと-



R6年度実施分

1. スマイル・トークレリレー「FLAT」から「FLAT-ふらっと-へ」	 P. 1
2. 実施状況	 P. 1
3. 実施一覧	 P. 2
4. R6取組方針	 P. 3
5. 実施団体別主な内容	 P. 4
6. 「市民の声」として対応	 P.34

令和 7年 4月
政策推進部市民連携課

1. スマイル・トークリレー「FLAT」から「FLAT-ふらっと-」へ

令和5年5月に開始したスマイル・トークリレー「FLAT」は、山本市長が公約として掲げる「対話の文化で描くまちづくり」実現のための事業であり、市長と市民の皆様が「FLAT(目線を同じく・対等な立場)」に対話を重ねる事業。

令和6年度は、名称をシンプルにわかりやすく「FLAT-ふらっと-」に変更、テーマを「みんなではなす、みんなでつくる」「FLATに話せる、ふらっと来たくなる」とし、積極的に市民の皆様と対話を続けている。

山本市長発言(R5.9月議会)

○「FLAT」を実施しての所感…

「市民の皆様のやさしさに触れ合う時間になっています。多くの市民の皆様との対話を通じて、市民の皆様がむつ市のことを思い、家族のことを思い、町内のことを思い、そして私の身体のことまで気遣ってくれる市民の方がいることに気づきました。そして、市民の皆様から課題や現状を伺うだけではなく、むつ市政を直接市民の皆様にお伝えする場にもなっていると感じています。(中略) 今後も、市民の皆様との対話を通じて市の課題解決の糸口を探るなど、市民協働によるまちづくりに向け、継続して取り組んでまいります。」

2. 実施状況

■ 参加者数等

26団体 397人

※うち、属性が把握できた方は下記のとおり

	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	13	27	40	29	21	27	25	4	186
女性	19	5	7	11	17	18	36	13	126
合計	32	32	47	40	38	45	61	17	312

■ 参加者の感想

アンケート実施会について一部抜粋

○参加されてどうでしたか? ※236名の方から回答いただきました。

1. 有意義…223人 2. 期待外れ…1人 3. どちらとも言えない…12人

○次回も参加したいですか? ※198名の方から回答いただきました。

1. 参加希望…181人 2. 参加しない…0人 3. どちらとも言えない…13人 4. 無回答…4人

多くの方から、有意義であり次回も参加したいとの回答をいただいております。

3. 実施一覧

No.	月日	曜日	団体名	参加者数	ページ
第1回	5月21日	火	むつ青年会議所	61人	4
第2回	6月26日	水	オンライン「FLAT」	8人	4
第3回	7月18日	木	ケアライフ青森むつ営業所	12人	5
第4回	7月23日	火	上川町町内会	16人	7
第5回	8月23日	金	川内漁協青年部	8人	8
第6回	8月24日	土	むつスケートボード愛好会	9人	9
第7回	10月11日	金	大畑地区民生委員児童委員協議会	16人	9
第8回	10月12日	土	栗山町町内会	14人	12
第9回	10月14日	月	むつ子育て応援イベント2024 実行委員会	30人	13
第10回	11月18日	月	大畑町商工会、観光協会、法人会、 青色申告会、自衛隊家族会	24人	13
第11回	11月22日	金	むつ養護学校PTA	8人	15
第12回	11月22日	金	関根中学校	28人	16
第13回	11月29日	金	大畑海峡ロデオ	11人	17
第14回	11月30日	土	町内会長	39人	18
第15回	12月22日	日	ボランティアむつの会	18人	20
第16回	12月23日	月	子育てメイト会	9人	21
第17回	1月7日	火	むつ人権擁護委員協議会 むつ地区推進部会	7人	22
第18回	1月24日	金	NPO法人青森県防災士会 むつ支部	17人	23
第19回	1月30日	木	研究機関(JAMSTEC)	15人	24
第20回	2月2日	日	蛸崎地区会	14人	26
第21回	2月8日	土	大畑町中島町内会	15人	27
第22回	3月16日	日	山田町A町内会	18人	29
合 計			26団体 (5町内会、18団体、1校、 1町内会長、1オンライン)	397人	

4. R6 取組方針

市全体会議での資料より

令和6年度「FLAT」の事業展開について

■ あらゆる世代 様々な業界の方との対話を目指して

- ◆ 募集は5月中旬から開始 LINE、広報むつ等
- ◆ 各部局においても関連団体への呼びかけや実施への対応
- ◆ 実施方法例はグループウェアキャビネットにあり

■ 「FLAT」への若手職員の参加

新たな取組

市民連携課実施回に、市民連携課以外の若手職員も参加

【目的】

- ◆ 市職員の地域コミュニティへの参画意識の醸成
- ◆ 市長と市民の対話を聞くことにより、市政&市民目線を知る
- ◆ 来庁者の少ない部署職員においては市民対応力、またはファシリテーター力の向上

【想定】

- ◆ 対象・・・若手職員を広く募集&採用〇年目職員から順に ←採用2年目を予定
- ◆ 本来の業務に差し支えない範囲で、OJT扱い ←募集や調整は市民連携課
- ◆ 夜間・土日開催時の参加も可 ←業務として時間外勤務
- ◆ 参加職員については、事業意図・役割等を説明し、可能な範囲で担当業務を割り振り当日参加いただく



■ 「FLAT」への部局長の参画

- ◆ 担当部局開催時はもとより、他の部局での「FLAT」にも積極的に参画

市民の声を直接聞き
市の施策へと展開

市民の声を、市の各組織に一層浸透させる狙いから、担当課のみではなく、幹部職員や若手職員が出席する。

開催方法（形式）も幅広く。

R6.5 月記者会見資料

令和6年度「FLAT」について

■ あらゆる世代 様々な業界の方との対話を目指します

5月中旬より募集開始

新たな取組

R6年度はオンラインでも開催
会場に来なくても対話ができる！
まずは子育て世代と開催予定

こちらも5月中に募集開始予定

「FLAT-ふらっと-」とは

市長が集いの場に出向き、市民の皆様と「FLAT(目線を同じく)・対等な立場」で対話を重ねる事業。

対話の中から
市の施策へと展開



申込方法

開催希望日の1ヶ月前までに、来庁、郵送、FAX、メールまたは市HP申込フォームにより、担当市民連携課まで

申込先

市民連携課アドレス: renkei@city.mutsu.lg.jp
市HP申込フォーム: <https://logoform.lg/f/VuCF4>
電話: 22-1111 (内線2151)
FAX: 23-0234

5. 実施団体別主な内容

■第1回 5/21 むつ青年会議所

場 所:むつ来さまい館

参加者:61名

<主な内容>

テーマ:理念(1.自分の理念

2.会社・クラス理念)

➤ 上記テーマについて、参加者がグループ毎に対話

➤ 市長総評

「今回、自身を俯瞰で見つめる一時になったと思う。私の理念は「日月に私照無し」。太陽や月は特定の人だけを照らすのではなく、世の中全体を公平に照らす、そのように私もありたいと常々思っている。」

➤ 異業種交流の機会としても実施しているため、参加者にとっては市内のいろんな企業の方との対話や、人脈を作る機会でもあったことから大変好評だった。



■第2回 6/26 オンライン「FLAT」

方 法:オンライン

参加者:8名

<主な内容>

子育て全般に関して下記のとおり対話



参加者から	市長から
子どもの遊び場について ①自然と戯れる大型アスレチック等があると、地域活性化にも繋がる。 ②学区内に公園がほしい。多くの人の目に触れる公園だと安心する。 ③市街地活性化のため、イベント広場周辺を綺麗に整備してくれるとよい。	現在、金谷公園の整備を進めている最中で障がいの有無に関係なく利用できる遊具を設置する。 各公園にある滑り台とブランコは維持する。 水源地公園や運動公園のほか、休日は学校の校庭に設置されている遊具も活用してほしい。 警察から不審者情報があった際は、各団体に情報提供しているほか、今年度から防犯カメラの設置を進めている。 イベント広場については順次改修していく。

参加者から	市長から
第一田名部小の東階段を整備してほしい。	法面は県の所管であり、階段等は急傾斜地の側溝や法面の管理用通路と思われる。 通学路ではないが、危険防止のための最低限の補修は行う。
柳町の通学路を整備してほしい。	国道は県の所管となるが、県に要望するためにも周辺に住む方たちの総意として町内会を通して要望してほしい。 また、年1回、関係機関が集まって危険箇所を話しあっているので、学校を通して要望してほしい。
みどりのおばさん（交通指導員）を増やしてほしい。	配置には交通量やみどりのおばさん（交通指導員）をやっている方の有無等、調査が必要となるので、学校を通して要望してほしい。

- 昨年度の FLAT 参加者から提案があったオンラインによる開催を初めて実施。外出が難しい子育て世代からまずはスタート。
- そのほか、子育ての悩み、市の課題、子ども達の未来に必要なもの等、対話が行われた。
- 終了後、対話に出た通学路等を現地確認。



■第3回 7/18 ケアライフ青森むつ営業所

場 所：地域包括支援センター桜木

参加者：12名

<主な内容>

高齢者の移送サービス、公共交通機関利用、医療について下記のとおり対話

項 目	参加者から	市長から
交通政策 (muve について)	①バスの本数が少ない地域を運行してほしい。 ②個人病院にもバス停を設置してほしい。 ③経路や時刻表などをむつ総合病院のモニターに映して分かりやすくなればいい。	muve の運営は市ではないが、今年度から交通政策課を立ち上げ、調整役を担っている。 路線拡大は、他社のバスと同じ路線を走ってはいけないというルールがあり、調整が必要。 赤字でも市民のために事業を行っていただいているため、路線拡大には市の予算投入も必要となるが、市民の皆様から意見があれば、検討して議会に提案することができると思う。
オンライン診療	高齢者宅でタブレットを使って、オンライン診療ができるようにしてもらいたい。	むつ総合病院と弘前大学病院のオンライン診療が始まる。看護師が自宅に行き、オンラインで医師と相談し、診療が受けられる体制が整う。

項 目	参加者から	市長から
市役所での 手続き	手続きのために複数の課を回らなければいけないため、関連する課が近くに並んでいるといい。	市役所の配置は、市民の皆さんがよく利用するところを正面玄関側に並べている。今年度は障がいサービスと高齢者サービスを総合福祉課として一つの窓口にするなど毎年見直しをしている。見直しができるところは行っていく。
アゲハの利 活用方法	75歳以下でもバス利用が困難な方がいるため年齢制限を65歳以上の要介護認定者に拡大してはどうか。 また、介助者の運賃が無償化されれば、ヘルパーによる移動介助が可能となる。	アゲハが75歳以上としているのは、75歳以上が外に出ない傾向が高いためである。年齢制限の引き下げや、介助者のことも引き続き検討していく。
車椅子やス トレッチャー が必要な方 の移送サー ビス	西通地区のヘルパーが不足している。中心部から派遣すると移動だけで1時間以上かかることから派遣できるヘルパー事業者がない。	ヘルパーの不足から、中心部から遠い地区は自宅診療が出来なければサービスが回らなくなっていくと思うので、脇野沢、川内あたりからオンライン診療を始めていきたいと考えている。
レスパイト 入院※	受け入れしてくれる病院がない。	むつ総合病院もむつリハビリテーション病院も病室に空きはあるが、看護師がいない。院長のみなさんとどのような対応ができるか考えていきたい。

※ レスパイト入院:在宅での介護を担われているご家族が日々の介護に疲れを感じ、介護力の限界を超え介護不能となることなどを予防するための入院

■第4回 7/23 上川町町内会

場 所:上川町集会所

参加者:16名

<主な内容>

理想のむつ市にするため、自分たちでできること、市にやってほしいことについて、グループで対話。
その後グループ内の意見について市長と対話



理 想	参加者から	市長から
移動しやすい むつ市	アゲハの利用方法や muve の路線を周知してもらいたい。 交通を充実させるためには、自分たちもバスをたくさん利用していくことが必要になる。	交通政策については、昨年度の FLAT でも意見が多く出ていたので、4月に交通政策課を立ち上げて対策に取り組んでいる。
綺麗なむつ市	道路に雑草が茂っているため、道路の適切な管理に努めてもらいたい。 自分たちも自宅周辺の環境整備を行っていかねばならない。 公共施設については、建設時から計画的な管理をしてほしい。	上川町周辺の道路整備については道の駅の整備に併せて行っていきたい。
子どもがたくさん いるむつ市	子どもがいる家庭への支援に力を入れてほしい。 自分たちも子育てしやすい環境作りに携わっていく必要があると思う。	昨年から医療費無償化を実施しており、10月からは小・中学校の給食費が無償化になる。 さらに今年から高校生のスクールバス助成を始めた。 子育て支援は、最終的には高齢者支援にも繋がるので、力を入れていきたい。
	企業誘致を積極的に進めていく必要があると思う。キャスク製造工場等の誘致を進めてほしい。	様々な訪問先と繋がりを持つことで企業の誘致を進めていきたい。
新患受付等、 スムーズに受 診のできる病 院があるむつ 市	総合病院の医師を増やすなど、誰でも受付できるような環境作りを進めてほしい。 自分たちも民間病院を積極的に利用する必要がある。	デジタル技術を活用して、むつ総合病院と弘前大学病院をオンラインで繋ぎ、診察できるよう取り組んでいる。

➤ 「市民の声」として持ち帰り … 2件

■第5回 8/23 川内漁協青年部

場 所: 桧川荷捌施設

参 加 者: 8名

<主な内容>

漁業の現状を共有したうえで下記のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
漁業に関する課題	機械化しても、人の手がかかる。人手不足に悩んでいるので斡旋してほしい。	将来に向けて投資したいと考えている。
	①使い古した資材の処分費を支援してほしい。 ②ハ尺を市で購入してくれないか。	個人への補助金は難しいが、皆さんで会社を作るとか、協同事業を行うのであれば補助金を出せる。ナマコの種苗放流や投石に補助しているので、ハ尺代も補助できると思う。
ホタテの地元消費拡大	①ホタテを食べてもらう機会がない。食育など食べてもらう機会を増やしたい。 ②川内にホタテを食べられるところがないので、屋台とかを出せばよい。	川内地区には地域おこし協力隊がいるので、連携して海の家や店を出すようにすればよいのではないかな。
その他	おつ総合病院にベビーカーを設置してほしい。子ども2人を連れていくのに苦労している。	実態を調べてみる。
	コロナ禍に川内で薬を買うことが難しかったので、ドラッグストアがほしい。	現在、おつ総合病院でオンライン診療を始めようとしている。また、公済会では既にオンラインに対応しているので、活用していただきたい。

■第6回 8/24 むつスケートボード愛好会

場 所:マエダアリーナ駐車場

参 加 者:9名

<主な内容>

スケートボードの練習環境について、現状を共有したうえで下記のとおり対話



参加者から	市長から
スケートボード場の設置について検討してほしい。	市内の廃校を利用してはどうか。 むつ技術専門校にお願いすることで、セクションを作れるかもしれない。 愛好会ではなく、協会を立ち上げて長く利用する形を作ってくれば支援しやすい。
沖縄に住んでいたとき、スケートボードのコーチが空き店舗を借りて練習場所を作っていた。そこに付近の住民が集まり、コミュニティが形成されていたので、むつ市でもそうなるのが理想。	商工会議所で空き店舗助成があるが、課題は運営費だと思う。 皆さんが集まってできるということが大事。

➤ 終了後、練習場所を視察。

■第7回 10/11

大畑地区民生委員児童委員協議会

場 所:ふれあいかん

参 加 者:16名

<主な内容>

大畑地区が抱える問題について、以下のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
民生委員児童委員の欠員について	むつ市6地区の協議会で28人の欠員があるが、市長はどのように考えているのか。	10月1日時点で21人欠員、充足率86.7%と把握。 少子高齢化で、なり手が減っているという認識だが、むつ市よりも人口が少なく高齢化率が高い市が、充足率100%を達成しているため、何らかの取り組みがされているのかと思う。実際に活動している皆さんからの御提案をいただきたい。

項 目	参加者から	市長から
	来年度の一斉改選では欠員がないように市長にもお願いしたい。	民生委員の欠員対策について、例えば消防団では「消防団応援の店」というのが全国的に始まっており、むつ市でもサービスが受けられる支援がある。 このようなメリットが必要であれば、登録を促していくことも可能だと思う。むつ市としてやってもいいと思うので、そのような提案をいただければありがたい。
民生委員の処遇について	処遇改善を検討していただきたい。	まずは青森県内の状況を調査させていただき、追いついていない部分があれば、対応させていただきたい。 他にも何かあれば対応させていただきたいと思う。
事業者等への協力について	現役世代でも民生委員になる可能性はあると思うので、事業者の協力が得られる体制をつくってほしい。	事業者の皆さんに協力いただくことは大事だと思うので、仕組み作りをする。 例えば、商工会議所に働きかけるだとか、そういうところから始めていきたいと思う。
防災訓練について	防災マップでは大畑地区の約8割が津波被害を受けるが、4,000人の避難場所はあるのか、その辺を含めて総合的な避難訓練を実施すべきではないか。また、避難場所のうち、大畑小学校周辺は津波被害を受けるため、避難場所として大畑高校を検討してもらいたい。	大畑高校を避難所にすることも可能だが、津波は30分で来てしまう。 避難には安全確保の一次避難と避難所に避難する二次避難があり、まずは一次避難として近場の大畑小学校や大畑庁舎を選択し、津波が引いたら二次避難する。 このような避難方法が有効だと言われており、はじめから避難所に避難するということは想定していない。 まずは30分間で垂直避難、横ではなく高い所に逃げるということを大畑・関根地区の皆さんには周知している。 今後、避難する丘を作った方がいいか、避難タワーを作った方がいいか、皆さんと協議しながら整備をしていく。
	大規模な避難訓練を実施してほしい。 また、要避難者対策も考えてもらいたい。	要避難者として登録されているのは2名で、消防・警察・自衛隊の連携の中で救助することになっている。 大規模な避難訓練はやっていく。
敬老会について	敬老会が再開されるのか。	高齢者の皆さんの希望があれば再開してもいいと思う。 年1回の敬老会よりも週1〜2回でも皆さんが地区で集まって100歳体操をやるような仕組み作りの方が良いのではないかと考えているので、今は、普段から顔を合わせる活動に力を入れている状況。

項 目	参加者から	市長から
	高齢者によっては年1回の敬老会を楽しみにしている方もいるので再開の検討をお願いします。	いろいろと検討してまいります。
	敬老会がなくても、お祝い品が届いていた時は祝ってもらっていると感じていたため、その点も検討してほしい。	敬老会に関しては、参加者と欠席者を公平にするためにお祝い品を送ることにした。 集まった方が良いのかは意見が割れるところだと思うので、議論していきたい。
子育て 高齢者福祉 について	子ども達ばかりにお金を出して、老人にはメリットが無い。	子育てにかかる費用と高齢者にかかる費用は高齢者の方が高い。例えば、総合病院の建て替えも子育て世代の支援ではなく、どちらかと言えば高齢者の皆さんに対するものである。
土のう袋の 設置場所 について	木野部・赤川地区は、大畑市街までくるのに車で10分程かかるので、屯所に土のう袋を置いてほしい。	町内会に周知しており、新町と小目名は新しい土のうステーションが適用された。 場所を提供してくれれば大畑庁舎で対応するので、相談してほしい。
その他	大畑公民館の老朽化がひどいので建て替えるのか教えてほしい。	公民館も体育館も建て替えたいと思っている。 ただし、それらのあるべき場所についての議論が必要になってくるので、皆さんと相談する機会を作ったうえで考えていかなければならない。
	民生委員としての活動について、行政の速やかなサポートをお願いしたい。	本来行政がやるべきことを皆さんが負担してくれている。 皆さんの力をお借りして、最大限のサポート、バックアップ体制をとっていきたいと思う。

■第8回 10/12 栗山町町内会

場 所:栗山集会所

参 加 者:14名

<主な内容>



理想のむつ市にするため、自分たちでできること、市にやってほしいことについて、グループで対話。

その後グループ内の内容について市長と対話

理 想	参加者から	市長から
高齢者が暮らしやすいむつ市	muve の逆回りの路線をつくってほしい。 自分たちが出来ることとして、積極的なバスの利用。	逆回りの路線は関係機関で検討している。交通政策を今後も進めていく。
	むつ病と駐車場間に雨よけ、雪よけを設置してほしい。	検討したい。 なお、感染症センターを解体するので、駐車台数が40台程増える予定。
	声が聞き取れないので、市役所の高齢者向けの窓口では、大きい声を出してほしい。	市役所では毎年接遇研修を実施している。障害者手帳がなくても補聴器の助成が受けられるような制度を検討していきたい。
	FLAT-ふらっと-を毎年開催して市政に反映してもらいたい。	FLAT-ふらっと-は情報提供の場にもなっているので継続していきたい。
年配者や若者が充実した生活をしているむつ市	給与や年金を上げるためにも企業誘致をしてほしい。	働いている世代の給与が上がらないと年金も上がらない。 若い世代への政策は高齢者に向けた政策でもあるので、企業誘致を進めていく。
	神楽などを勉強できる仕組み作りをしてほしい。 自分たちも身近な人たちや町外の人たちを参加させていきたい。	まちゼミで取り組むのも良いと思う。一緒に伝統芸能を守っていきたい。
観光客の多いむつ市	①道の駅に温泉やミニ遊園地などを併設し観光客の長期滞在を図る。 ②けいらんや芋餅などのPR。 ③雪像を作り、雪まつりの開催。 ④冬のイベントで歌手などを呼んではどうか。	(道の駅建設のため)まずは縦貫道の早期完成に取り組む。令和14年に縦貫道と大湊バイパスが完成する予定なので県と一緒に頑張っていきたい。 釜臥山スキー場を活用して冬季の観光客を増やす仕組み作りを始めている。
その他	高等教育機関など市内に出来たのありがたい。	来年度八戸学院大学看護学科ができ、4年後からは毎年10名ずつ看護師が増える予定。

➤ そのほか、道路標識に関する意見があり、終了後に現地視察。意見は「市民の声」として持ち帰り。

■第9回 10/14

むつ子育て応援イベント2024実行委員会

場 所:下北文化会館

参 加 者:30名

<主な内容>

子育て全般に関して下記のとおり対話



参加者から	市長から
子どもの遊び場を整備してほしい。	既存施設の遊具は計画を立てて更新する。 屋内施設としてドームやアリーナの空きスペースを活用してトラ ンポリンパークのような施設の設置を検討する。
危険な通学路(第一田名部小学校 東側階段と第二田名部小学校駐車 場付近)の整備してほしい。	第一田名部小学校東側階段は急傾斜地を管轄する県と共に 通学路整備を協議中。 第二田名部小学校駐車場については、順次整備していく。
小学生への防災頭巾の配布をして ほしい。	防災マットか防災頭巾を整備したい。 ※参加者に対して、防犯上の観点から配布を疑問視している 小学1年生への黄色い帽子やランドセルカバーの必要性に ついて意見を聞いたところ、不要の意見多数。
通学距離に関係なくスクールバスを 利用できるようにしてほしい。 例:城ヶ沢は利用可、途中の宇田町 は利用不可。	課題が多く、時間はかかるが検討していく。

■第10回 11/18

大畑町商工会、観光協会、法人会、
青色申告会、自衛隊家族会

場 所:おたふく

参加者:24名

<主な内容>

大畑地区の経済・暮らし・各団体の悩みについて下記のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
むつ市商工 団体補助金	むつ下北地域内6商工会で合 併を協議しているが、合併後に 補助金の要望はできるのか。	補助金は継続できると考えている。合併によるメリッ トは、イベントの予算は変わらずに、他の地区の人にも 手伝ってもらえるというところがある。
	商工会会員(事業者)のために 新たな事業を企画しようとした 場合、補助金の増額は可能か。	補助金については、具体的な使途を明示したうえで、 議会に承認いただいている。使途を変更したい場合 は議会から承認を得る必要がある。

項 目	参加者から	市長から
電源立地地域としての活動	立地4市町村長、むつ・大間・東通商工団体の要望活動の際に隣接商工会として同行したい。	今年度から共創会議が立ち上がり、4市町村での活動はしていないが、具体的な課題解決の場をつくるということで市が橋渡し役となることはできる。
地域資源・観光	水産資源回復のために、行政が取り組むべき課題をどのように捉えているか。	海水温の上昇や回遊魚の減少の影響があると思う。資源を維持する取り組みも必要だが、国内人口は減少していくので、国外に販売して行かなければならないと考えている。
	薬研～佐井線の開通時期をゴールデンウィーク前にするよう、県に要望してほしい。	FLAT-ふらっと-で出た意見は県や国にも伝えていく。早期通行できないか、意見を届けさせていただく。
防災	デジタル防災無線で、庁舎・町内・漁協などの生活関連の放送への対応を考えているか。	今年度中にスマートフォンで、防災無線の内容を聞くことが出来る仕組みを導入する。 町内放送もできるし、消防団員限定で招集の放送を流すこともできる。
	線状降水帯対策として、貯水池の整備を検討してほしい。	排水ポンプと土のうステーションを設置したが、現在、降水量や浸水エリアなどを正確に把握するための計画を作成している。そのうえで、貯水池を整備する議論が必要となる。
防犯対策	大畑町商店街街路灯の防犯灯への切り替えについて、金融機関3店舗のATMが稼働している区間は防犯上の観点から道路両側に防犯灯を設置してもらいたい。	全て切り替わった後に暗い地域があれば、御要望いただきたい。

➤ 多団体合同でFLAT-ふらっと-を実施。

■第11回 11/22 むつ養護学校 PTA

場 所:むつ養護学校体育館

参 加 者:8名

<主な内容>

防災や災害時の避難場所、避難経路の課題と取り組みについて下記のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
災害時の避難場所	津波災害時の避難場所について、移動に時間がかかる子、難しい子が多いので、日中はそのまま学校にいられるようにしてほしい。	津波の予想到達時間から学校にとどまった方がよい。津波到達後は物資や供給の点から1カ所に集まった方がいいため、津波到達後に避難所や福祉避難所に向かった方がいいと思う。
	市内の小中学校に一人ずつ防災バッグを準備して、常備しておくことはできるのか。	海溝型の地震であれば、1番危惧されるのは津波。何も持たずに垂直避難が原則となる。防災バッグも大事だが、生死の境とされる72時間乗り越えられるよう、全国的にそれぞれの御家庭で準備しておくようになっている。
	自宅から避難する場合、障がい児がいる家庭はどうしても時間がかかる。丈夫な3階建以上の建物に優先的に避難できないものか。	避難所は公共施設に限らず、民間にも協力いただいている。提携先を増やしているところではあるが、加速して取り組んでいきたい。
要支援者に対する情報発信	要支援者登録を行ったが、情報が来ない。要支援者用の情報を得る方法はないか。	むつ市公式 LINE では、欲しい情報だけを選択できるようにセグメント配信を行っている。要支援者用の運用については検討する。
避難訓練	休日に障がい児のいる家庭を対象とした避難訓練があれば参加しやすい。障がい者の実態を見てもらわないと、大変な部分が伝わりづらい。	対象を限定した避難訓練はできなくはない。先月開催した防災フェアの目的の一つとして、災害時に関わる人たちとの顔合わせがある。できる限り迅速に動けるよう訓練は行っているが、まずは自分自身の安全の確保をしてほしい。
ユニバーサルトイレの増設	もっと多くの場所に設置してほしいほか、設置場所が周知されていない。	周知方法を検討する。

■第12回 11/22 関根中学校

場 所:関根中学校

参 加 者:28名

<主な内容>

こどもの権利条約について下記のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
差別の禁止	男女差別をなくするため『男女差別しません宣言』を行ってはどうか。 また、LGBTQ+についても学校で学ぶ機会をつくってはどうか。	平等と公平というのは違う。市民全員に同じことを行っても、個々の条件が違うので、不公平が生じる。また、自由とは良いことだけではない。自由にした結果、格差が生じるなど、厳しい一面があることを知ってほしい。
意見を表す権利と表現の自由	子どもが意見を出しても否定されるほか、校則も多い。子どもが意見を出していくためにも、他校の生徒と情報共有する場を設け、話し合いたい大人と話せる機会があればいいと思う。	歌については、市が作成し皆さんに提示しても広まらないので、発展させていくため、皆さんで作ってみてはどうか。
子どもにもっとよいことを	広く子どもの権利を知ってもらうために子どもの権利条約の歌を作って、放送してはどうか。	毎月第3日曜日は家庭の日となっているので、まずは各家庭でふれあう時間を大切にしてほしい。
生きる権利・育つ権利	虐待する要因として、仕事や育児のストレスがあると思う。ストレスを減らすため、勤務時間を減らしたり、ベビーシッターや相談所、保育園・幼稚園を増やしたりすればいいと思う。	

- 子どもを対象とした FLAT-ふらっと-を初めて開催。
- キャリア教室の一つとして実施。

■第13回 11/29 大畑海峡ロデオ

場 所:街道の茶屋 きんぱ

参 加 者:11名

<主な内容>

漁師の元気、大畑の元気(漁業を活用した大畑の賑わいづくり)について、下記のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
漁業の活性化 (漁業者増加 について)	①後継者不足で今後の漁業が不安。 ②大畑に漁業をやりたい人を呼び込みたい。 ③港付近の加工場を利用して呼び込んだ人用のシェアハウスを作りたい。 ④漁師になるきっかけがない。手軽な漁業体験や金銭支援を受けながら漁師になるパッケージがあればよい。 ⑤体制が整っても自立できなければならないので新規漁業者のフォローを漁協がしてくれればよいと思う。 ⑥浜に活気が出れば大畑地区に活気が出る。	【漁業者向けシェアハウスについて】 前向きに検討したい。補助金もあるので提案があればやっていきたい。 【漁業者の受け入れについて】 制度として地域おこし協力隊がある。大畑地区で受け入れられる風土があればやっていきたいが、漁師が受け入れてくれるかが問題。漁業体験ができる船があればいいと思うので、1週間交代でいいので本日のメンバーが協力してくれればありがたい。
漁業の活性化 (養殖について)	①(漁業に)夢があることを見いだすには安定することが1番。そのためには養殖が1番いいと思うが、餌代が高くなっている。手間だけかけてお金がかからないものがあればいい。 ②二枚橋小や正津川小を活用して陸上養殖を行ってはどうか。 ③サーモン養殖は全国的に注目されて(行われて)いるが、販売ルートがないと失敗するのでサーモン以外の魚はどうか。	漁業が儲かることや夢があることを見いだせば(大畑に)来てくれる人もいるのではないかな。 養殖業者の誘致は地元の漁師が儲からず還元がない。通年で収入が出る仕組みが必要。
その他	①桜ロードのライトアップや終着地点でのイベントの開催。 ②海水浴場に散歩に来ている人が多いことから周辺の土地を活用してキャンプ場や雪捨て場、茶屋の設置。	シェアハウスやライトアップなど地域の皆さんが想っているところに予算をつけていきたい。

■第14回 11/30 町内会長

場 所:下北文化会館

参 加 者:39名

<主な内容>



理想のむつ市にするため、自分たちでできること、市にやってほしいことについて、グループで対話。

その後グループ内の意見について市長と対話

理 想	参加者から	市長から
若者が帰ってきたいと思うむつ市	①若者の減少対策のための有名大学の誘致や、働く場所の確保のための企業誘致をしてほしい。 ②廃校を活用した農業法人の設立。 ③魅力的な1次産業の創出に力を入れてほしい。 ④交通面で住みよい町づくりをしてほしい(市内全域を通る山手線のような公共交通機関や病院直結のバス、路面電車など)。	大学誘致については、来年度八戸学院大学看護学科ができる。 若者の働く場所の確保のため、様々な場所へ赴き、企業誘致に取り組んでいる。 交通については、運転手が不足しているため、無人自動車の研究に注目しており、補助金があれば導入を検討したい。 また、既存のバスについては税金を投入して良いのであれば路線の拡張も検討したい。
人口が増えていくむつ市	人口減少の課題として、若者の市外流出や交通手段の利便性の不足が挙げられる。 人口を増やすためにもUターン支援の充実やむつ市の産業の現状を知ったうえで強みを伸ばす施策をしてほしい。	交通手段について、居住地区にバスが来ないという意見は把握しているので、muveの運行ルートの見直しを行う予定である。
人が多く住むむつ市	①高齢者の生きる活力を高めるため100歳到達時の100万円贈呈を復活してほしい。 ②結婚サポートをしたら子どもが増えていくのではないか。 ③市の財政のためにも、ふるさと納税のさらなる活用を考えていくべきではないか。 ④バス運営会社への補助をすることで、公共交通の充実を図ることができるのではないか。	現在、100歳を迎えた市民の皆様には3万円をお渡ししている。昔は100歳を迎える人が少なかったため、大きな金額を出せていたが、今は厳しい。 憩いの家に、エアコンを設置したり、身体を動かせるゲーム機を設置したりしているので高齢者にも目を向けているということを御理解いただきたい。 誘致活動については、力を入れているので期待してほしい。

理 想	参加者から	市長から
おもいや り、つなが りのある むつ市	①災害時における自助の重要性については、町内会など地域単位での啓発が可能なため、市には共助を支える設備面での支援をしてほしい。 ②次世代の積極的活動が課題だと思うので、盛り上がっているむつ市のアピールと次世代への活動支援をしてほしい。 ③町内会加入率の低下、運営の難化が進んでいるので、行政で町内会入会のメリット等の発信や、町内会が情報共有する機会の創出をしてほしい。	共助に力を入れるためにも、自主防災組織を立ち上げて欲しい。 市の情報は市内への発信、市外への発信どちらも大事なので、紙媒体での広報紙もやめるつもりはない。
医 療・道 路整備が 行き渡り、 若者が帰 ってきたく なるむつ 市	①医療体制の充実を図ってほしい。 ②防災の観点から道路整備を推進してほしい。 ③若者が帰ってきたくなるように、仕事を増やしてほしい。	弘前大学医学病院との連携により、リモート診断が可能となった。 民間の企業と協力して高い建物を避難施設にしてもらい取り組みを進めていきたい。道路整備については、下北縦貫道が令和 14 年度完成予定である。 若者の働く場所の確保のため、様々な場所に赴き、企業誘致に取り組んでいるので期待してほしい。

- FLAT-ふらっと-実施前に、町内会アンケート結果の紹介や、町内会毎の情報共有の時間を設けた。参加者からは、「他の町内会の課題やそれに対する対策、考え方が聞けて良かった。」との声があった。
- FLAT-ふらっと-終了後、防災放送アプリ「コスモキャスト」の説明と実演を行った。市長からはスマホアプリが防災無線の代わりにならないか試して、それがダメなら他の手段を考えていきたいとの話があった。

■第15回 12/22 ボランティアむつの会

場 所:海老川コミュニティセンター

参 加 者:18名

<主な内容>

高齢者の居場所について、下記のとおり対話



参加者から	市長から
①溜まり場があっても集まる手段がない。muve は時間や場所が合わない。 ②体を動かす機会を作ってほしい。 ③外に出ることが出来ない高齢者の見守りであれば、会の皆で、単身世帯の訪問も出来るかもしれない。	muve について、今年度までは実証実験で、来年度からもやっていく予定。 バスやタクシーの運転手不足に関しては、来年度から自動運転バスの実証実験を行う予定。 自動タクシーも考えているので、もう少々お待ちいただきたい。
月1回、好きな物を持ち寄って集まる会があったものの、コロナでなくなってしまったので復活したい。	茶話やかサロンは、少しずつ戻ってきている。 何かを一緒にやることは大事。 拠点を増やせるようにしていきたい。
①移動手段がないことに関して、交通機関を使わなくてもいいような距離に、小さい溜まり場を小まめに作るのはどうか。 ②高齢者が福祉の受け手ではなく、担い手になっていくことも必要。	溜まり場を小さい単位にすると、まとめる人が必要になるので対話をして意見を伺いたい。
福祉バスの利用について、団体以外も利用出来るようにしてほしい。	福祉バスについては、バス会社から辞めてほしいという意見が来ている。 誰でも乗せてしまうとバス会社が苦しくなってしまう。

■第16回 12/23 子育てメイト会

場 所:ムチュ☆らんど

参 加 者:9名

<主な内容>

むつ市での子育てについて、下記のとおり対話



参加者から	市長から
キッズパーク利用者を増やしたい。 現在、車がなく、バス停から子どもを抱えて歩いてくる利用者がいるため、乗り合いタクシーの運行等の工夫をしてほしい。	移動手段は確保しなければならないと思う。 すぐに実現するのは難しいが、10年後を見据えて取り組んでいく。
①選定医療費が高い。 ②むつ総合病院の待ち時間が長い。	選定医療費は、いきなり大きな病院に通院すると発生するものであり、むつ総合病院に患者が集中するのを防ぐ目的がある。市内に民間の小児科が2カ所あるので、まずはそこで診てもらうことがむつ総合病院の待ち時間問題解消に繋がる。
むつ総合病院の看護師の対応について。	研修を受けてもらう等の対策を検討する。
ドクターヘリを確保してほしい。	ドクターヘリは心疾患か脳疾患の症状でしか出動出来ない。むつ総合病院では弘前大学医学病院との連携により、リモート診断が可能となった。
障がいを持っている子どもと一緒に学べる環境が欲しい。	メタバース環境で学習できる仕組みをつくった。

➤ アンケートに子どもの遊び場の整備やベビー用品の購入補助を求める声が寄せられていた。

■第17回 1/7

むつ人権擁護委員協議会むつ地区推進部会

場 所:法務局むつ支局

参 加 者:7名

<主な内容>人権擁護委員としてのご意見やその他、気になること等について、下記のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
人権擁護委員について	人権擁護委員の充足。 役場の再任用職員が委員になっている事例があるので参考としてほしい。	町内会やPTAも減ってきて危機感を感じている。人権擁護委員になりそうな人がいたら教えてほしい。
	人権教室実施のため元教員の委員が必要。市長から一声掛けるだけでも違うと思う。	わかりました。
	人権侵害の相談がほとんどない。 昔は防災無線での広報を聞いて相談に来ていたので、もっと相談したい人がいるのではないかと思う。	相談窓口は社協に業務委託している。 スマートフォンの広報システムが使えると思うので、周知していきたい。
ゴミ捨てについて	津軽方面ではゴミ袋に名前を書いており、ルールを守らない人のゴミは回収してもらえない。 むつ市も導入してみたらどうか。	市民の皆さんがよければ出来ると思うが、そもそもルールを守らない人や町内会に加入しないで適当に捨てている人が名前を書くのか疑問。 町内会未加入者については、個人でクリーンセンターに持って行く方法だけではなく、本庁舎や分庁舎にごみステーションを設けて、そこに持ってきてもらうようなことも考えている。
町内会について	町内会員の充足について、川内では、持ち家の人を正会員、アパートの人を準会員として差を設けているので、他の参考にしてほしい。	今年度の町内会長 FLAT-ふらっと-でも、他の町内会の良い事例を紹介し合ったので、他にもあればどんどん紹介してもらいたい。 準会員は良い案。
子育てについて	子どもが悩んでいる時に、メールで相談出来るようにしてほしい。 実施しているのであれば、もっと周知してほしい。	子どもみらい部で実施しており、相談員も配置している。周知もしていく。

■第18回 1/24 青森県防災士会むつ支部

場 所:Field むつのたね

参 加 者:17名

<主な内容>防災について、下記のとおり対話



参加者から	市長から
要支援者の把握のために、市と防災士会とで包括協定を結んでいただきたい。	包括協定は可能だと思うが、個人情報の扱いは難しいため、皆さんと協議をしていきたい。
防災士会と社協とで協定を結んでボランティア保険を無料に出来ないか。	持ち帰って検討する。
むつ市総合経営計画の世帯カバー率は、何の数字なのか教えてほしい。	自主防災組織のある町内会の人数を全体で割っている。
市民を巻き込んで防災訓練を実施出来ないか。祭の時や駐車場が埋まっている時の対応など、普段とは違った訓練になっていいのではないか。	市民参加型の防災対応訓練も考えている。
学生主催の下北防災フェスティバルで避難所グッズの展示や炊き出しをやっている。高校生だから出来る出来ないかお知恵をいただきたい。	防災カードゲームを一緒にやるとかをすれば、小・中学生も参加しやすいと思う。
全国に防災大学がないので、立ち上げるのも面白いのではないか。	総合経営計画もあと2年なので、次の10年間をどうするか、皆さんの意見も反映されるので、このような会に御参会いただき、意見を出してほしい。
岩手県の大槌町へ勉強に行きたいので、市でバスを出してほしい。 大槌町は、日本で最初の地区防災計画を立ち上げたが、こういった計画は地域が連携して作るのが肝だと思う。	検討する。 地域の皆さんと作る計画について、時間がかかると思うが、少しずつ進めていきたい。

- 対話の前には、「防災を乗り越える地域のチカラ」と題して、防災士の基本理念である自助、共助、協働を原則とした活動等について、パワーポイントを活用した講話を実施。

■第19回 1/30

JAMSTEC おつ研究所

場 所:JAMSTEC おつ研究所

参 加 者:15名

<主な内容>

「研究機関と地域」について以下のとおり対話



項 目	参加者から	市長から
市との連携 について	おつ市に研究施設がある強みが欲しい。 八戸市のように「おつモデル」をつくり、「おつ市はこうやる！」みたいなものがあればよい。	STEAM 教育にも、おつ的な要素があればよいと思っている。 構想の中身について、何かあれば意見集約の場で寄せていただければありがたい。
	現在行なっている研究（海洋観測バイロボ）でやりたいことはあるが、予算の関係でチャレンジ出来ていない。 新しいことで地域に貢献出来ることはまだあると思っているため、やりたいことが出来るようになればいい。	おつ湾沿岸市町村の連携事業とするなど、方法を考えていきたい。 周辺ではホタテの減少などもみられているし、よい提案だと思うので「研究→フィードバック」の仕組みを県など含めて出来ればいい。
若い世代への アピール について	人材の確保が難しくなってきている。	若い世代が地域に残らないのが課題。産官学をつなぎ合わせる仕組みづくりが必要。 自分自身 JAMSTEC について知りきれておらず、周知しきれないのが問題だと思っている。まずは「知る」ことから。周知する方法も考えなければならない。
	理系の子ども達が興味ありそうな機材などが研究所にはたくさんある。いい活用法があれば。	子どものうちから興味をもつような教育が良いと思っている。 その一歩として STEAM 教育を進めたい。
	子どもがプログラミングしてセンサーを動かす体験だったり、センサーをふるさと納税の返礼品にして漁業関係者に使ってもらったりと、縦割りから外れて連携することで、子ども達に現場の面白みを知ってもらう体験があれば良いと思う。	生かせられるものがあればそういう経験もあると良いと思っている。 そういったコラボレーションが出来れば良い。

項 目	参加者から	市長から
学校との連携について	むつ市内で、学生ともう少し活動できる機会が欲しい。	活動いただけるような取組もしたいと思っている。
	職場体験に学生が来なくなった。親が送迎しなければならないのもネックだと思うので、公共交通機関でまとめて移動するなど考えられないものか。	自分も親として、職場体験先に送迎したことがあり、大変だと感じた。 企業の周知については、学校向けに市で網羅した企業一覧を作成しようとしている。
	過去に研究所を理科の先生の研修に使っていただいたことがあるので、ぜひ活用してもらえれば。	現在も研修会を行なっているので、先生の研修など様々な場面でぜひ利用させていただければ。
	むつ☆かつのクラブで夏休みにJAMSTEC へ体験にきてもらったら良いと思っている。	実際むつ☆かつの指導者が足りないこともあるので、子ども達に関わってくれる人を増やすことが大事。指導者の考えもあると思うが、ぜひそういった連携も出来れば良い。
認知度について	来年度地元に帰るが、むつ市の周知など手助けがしたい。	自分も、わざわざ来てくれるような地域にしていけるのが大切だと考えている。
	JAMSTEC の認知度がまだまだ低い。	プロジェクトの発信を市と一緒に打ち出せれば、全国から企業版ふるさと納税で研究が進んだりするかもしれない。 船籍港の市だから出来ることも考えていきたい。
その他	県のマッチングシステム「AI であう」のむつ市での登録者が少ない。市でもこういったものを作ってくれれば嬉しい。 また、むつ市がアクセスしやすい都市になればと思っている。	前は市でも実施していたが、こういったものを始めると、「市内だと知り合いばかりで恥ずかしい」みたいな話もある。 アクセスについては、陸路だけでなく空路も広く視野に入れ、色々検討していきたいと考えている。

■第20回 2/2 蛸崎地区会

場 所:蛸崎公民館

参 加 者:14名

<主な内容>



猿の被害防止対策と防災無線について以下のとおり対話

項目	参加者から	市長から
猿の被害防止対策について	猿の活動時間(畑に来る時間)と野猿監視員の勤務時間が一致していない。勤務時間を調整してほしい。	監視員の勤務時間は話し合って検討したい。
	猿や熊に作物を食われても1円の保障もない。 桜の黒い実や庭の果樹を食べにくるため、果樹を自費で伐採することになる。	新年度に猿や熊の対策として空き家対策や果樹の伐採に助成しようと考えている。 始まったら、ぜひ使ってほしい。
	現在使っている電気柵は猿が簡単に越えてしまうので、全体に電気が流れる新しい電気柵に更新してほしい。	検討します。
防災無線(防災放送アプリ)について	防災無線について、令和9年まで町内会で使えるとのことであるが、詳細を知りたい。	役所からアナログ電波を出すことは出来ないが、マイクを使って町内で有線放送することなら出来るということ。 ただし、交換部品がない。
	蛸崎地区は単身高齢世帯が20戸以上あるが、スマートフォン所持者がどのくらいいるのかわからない。	単身高齢世帯は増えてくると思うが、そういった人ほどスマートフォンを持ってほしい。 画面越しに医師の診察を受けることが出来るなど便利になる。
	スマートフォンの購入補助について条件があると思うが。	ショップに行っていれば、店員が教えてくれるようになっておりますので、安心してください。
その他	施設の完成時期について。	濃々園はあと1年くらいで完成する予定。 下北縦貫道は2032年に完成予定で令和7年度はむつ市と横浜町の2工区が開通する。 大湊バイパスは2032年に完成する予定で順次開通する。
	年1回開催される自転車の大会をむつ市でアピールしては。	令和8年度から国スポ・障スポ国体が始まる。令和7年度にはリハーサル大会も開催するので、むつ市をアピールしていきたい。
	買い物をする際、バス停からマエダストアまでが遠くて大変。	昨年度の買い物アンケートの結果は、困っていないという結果だったが、今年度もアンケ

項目	参加者から	市長から
	週に1日でも買い物バスが来てくれれば嬉しい。	ートを実施した。 アンケート結果が出たら、移動販売車なども考えていきます。
	閉校した学校の解体計画はあるのか。	新しい施設は活用し、古い施設は解体したいと考えている。 脇野沢にサーモン養殖場が1基出来たが、増設する段階で、閉校した学校を活用できないか考えている。 もう一つは、トマト工場のような工場を学校でやっているところも多いので、使える施設は使って、ボロボロの施設は解体していきたい。

➤ 情報・DX 戦略課職員による防災放送アプリのデモンストレーションを実施。

■第21回 2/8 大畑町中島町内会

場 所:中島町内会館

参 加 者:15名

<主な内容>



理想のむつ市にするため、自分たちでできること、市にやってほしいことについて、グループで対話。

その後グループ内の内容について市長と対話

理想	参加者から	市長から
施設の維持管理ができるむつ市	大畑体育館について、耐震状況は。電気や競技用タイマーの電池が切れているなど設備に不備がある。	担当課に状況を確認する。
災害に強いむつ市	去年のFLATで中島児童館を町内会に移譲できないかと話があったが、児童館はトイレが使えずゴミも捨てられないし、町内会館は電力が足りない。避難所として活用できるよう整備してほしい。	児童館については制約があるが、町内会にあげることはできるが維持費がかかる。現在防災担当課で、トイレカーの配備のほか、国に対してスポットクーラーや簡易トイレ、簡易ベッド購入のための補助金申請をしている。
	1月に中島地区で火事があったが、近所に住んでいても火事があったことがわからず、親戚から連絡があって初めてわかった。以前は町内で火事があった	デジタル防災無線は回線が一つだけなので特定の地区だけに放送することが出来ない。脇野沢地区に大畑地区の放送が流れるなど他地区の放送が流れてもよいと市民の皆様

	場合、防災無線で放送されていたので放送してほしい。 また、コスモキャストを使うにはスマホが必要だが、高齢者はスマホの操作がわからないので、スマホを持たない人のためにも自宅の電話等から放送が流れるような対策をしてほしい。	が言ってくれば放送してもいい。 放送についてはコスモキャストだけでなく、防災かまふせメールやラインなど様々なツールを活用していく。
	去年の FLAT-ふらっと-で津波避難用の丘やタワーを検討すると話があったが、完成までに時間がかかるので、高台へ避難するために小学校の斜面に避難道を作ってほしい。 また、町内の道路に最短距離で避難できるよう避難経路を周知する矢印を設置してはどうか。	新年度に副市長をトップにした「大畑まちづくりプロジェクト」を立ち上げ、地区の皆さんと話し合って、まちづくりを進める。その中で小学校や体育館、公民館の場所等についても検討する。
	大畑地区は午前 6 時と午後 8 時に時報が流れていたが、正午と午後 5 時に変わったのはなぜか。何十年も聞いていた時間が変わり違和感がある。	時報が流れる時間は全地区でバラバラだったため統一した。時報がうるさいとクレームが来ているが、きちんと放送されているか確認するために、1 日 2 回、時間を統一して放送している。
祭りの活動を支援してくれるむつ市	祭りについて、毎年修理費用で 5 万円以上かかっている。祭りを維持するためにも市から補助金をいただきたい。	補助については、いつか実現したいと考えている。

■第22回 3/16 山田町A町内会

場 所:山田集会所

参 加 者:18名

<主な内容>

情報DX戦略課による防災放送アプリ(コスモキャスト)の操作説明会や、防災安全課職員による自主防災組織の活動についての説明会も併せて実施し以下のとおり対話



項目	参加者から	市長から
防災について	スマホから防災放送アプリを発信できないか。 誤発信を防げる仕様にできないのか。	希望された町内会には、誤発信を防ぐためにIP無線機の配布を考えている。アプリの仕様変更については、開発元に確認する。
	災害時、町内会に入っていない人をどう守っていくべきか。	共助の精神を大切に基本的には町内会の皆様に町内を見ていただきたい
	過去に避難勧告が出た際、体育館に避難すると鍵がかかっていて、窓を割って入ったことがあった。実際の災害時は鍵を施錠する人はいつ来るのか。また、避難所開設にあたり、プライバシーを守るためのパーテーションや停電時のトイレはどうするのか。	この集会所付近の避難所としては、むつ工業高校、大平小・中学校があげられる。 鍵の施錠は、学校の先生等であり、多少のタイムラグが生じるため、災害時用の鍵を別に準備するなど対策を考えていく。 また、パーテーションは今後数を増やしていき、停電時のトイレについては、簡易トイレを配布する予定。
	災害時に可能な限り家で過ごすよう発信してほしい。	災害時の一時避難が3日で済めばいいが、能登半島地震の際は、1ヶ月以上かかることもあったため、個人でも食料等を備蓄してほしい。また、市でも防災備品を増やす予定であり、トイレカーを5台配備予定。
	今後、十勝沖地震や南海トラフ地震発生のある恐れがあるが、ガソリンや水は市民に行き届くのか。 また、予算が付くのであれば、ポリタンク等を配布してほしい。	現在は水が当たり前に行き届いているが、災害時は安全に水を届けるのが難しい。むつ市では、給水車が2台あるので活用していく。災害時の水・電気・ガソリン等の情報についてもアナウンスしていく。
	避難所にはどのくらいの人数が避難できるか。	避難者が1箇所に集中してしまうと、溢れてしまうため、他の避難所に移動してもらうことになる。自宅で2~3日生活できる備蓄を個人で備えることが1番のポイント。まずは命を最優先に考えてほしい。また、来年3月には、デジタル防災センターが完成し、約200人が避難できる避難所になる。

項目	参加者から	市長から
道路について	送迎でむつ工業高校付近の道路が大変混みあう。 高校統合にあたり、スムーズに通行できるように整備してほしい。	統合校は、令和9年度の一年生から募集を始める。旧校舎から新校舎への移行に伴う工事があるため、付近の道路は窮屈になることが予想される。周辺の皆様には御不便をおかけするが、御理解賜りたい。
その他	家庭菜園を行っている畑にサルがでた。何か対策はできないか。	新年度も電気柵の予算がある。電気柵の申し込みは、基本的に農家からだが、家庭菜園の方でも申し込みができる。
	屋根付きのドッグランがほしい。代官山公園にあるが、雨が降るとペットが遊べない。	防災の観点から、現在ペットと一緒に避難できる避難所がない。ドッグランも含めて検討していく。
	ペットの火葬場を旧むつ地区で建てる予定はあるか。	現在、脇野沢斎場の閉鎖を検討している。斎場の新設や建て替えをする際には検討する。

- 情報DX戦略課による防災放送アプリ(コスモキャスト)の操作説明会や、防災安全課職員による自主防災組織の活動についての説明会も併せて実施した。
- 「市民の声」として持ち帰り … 1件

6. 「市民の声」としての対応

「市民の声」とは、市民及び団体からの提案、意見、要望及び苦情を総称して「市民の声」と呼んでおり、“受付 → データ登録 → 関係課で対応”の流れで処理をするもの。

「FLAT」での対話の際に伺ったもののなかから、「市民の声」として持ち帰り対応したもの。

		町内会名	要望標題	対応
第4回	1	上川町町内会	歩道の整備について	道路管理者である青森県（下北地域県民局）へお伝えしたところ、修繕を検討するとの回答を得ました。
	2		空き家対策について	所有者等の調査を実施し、文書にて適正な管理を依頼していきます。
第8回	3	栗山町町内会	標識の場所について	青森県公安委員会（警察）と協議し、標識の撤去等、検討していく旨の意向を確認しました。
第20回	4	蛸崎地区会	男川の浚渫について	河川管理者である青森県と協議し、青森県において、令和8年度以降対応していくと回答を得ました。
第21回	5	中島町内会	むつ市大畑体育館について（今後における利用の可否について）	むつ市大畑体育館は旧耐震基準により建設されていることから、耐震診断の実施につきましては、適切に判断してまいりたい。 令和6年3月に策定しました「むつ市スポーツ施設整備計画」において、将来的に大畑地区の閉校した（あるいは閉校する）学校体育館を代替施設として機能の移転をできないか検討中であります。 今後もむつ市大畑体育館の利用は可能ですが、施設の老朽化や設備の故障により、利用を中止させていただく可能性もございます。